「炉端の会」のひとり言-1

炉端の会
2018.11

◇「かわさきパラムーブメント」小冊子に「炉端の会」が載りました。

川崎市では、障害のある人などが生き生きと暮らす上での障壁となっている、私たちの意識や社会環境のバリアを取り除くことや、新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント」として、「かわさきパラムーブメント」を推進していますが、9月18日に第2期推進ビジョン冊子が作成されました。

今回作成された冊子では、20ページに「炉端の会」の会員も顔を出しています。

①川崎市立日本民家園（生田緑地）

自然豊かな生田緑地の一角にある野外博物館。200～300年前の古民家や生活道具が日本の暮らしを語っています。園内では古民家の保存とお客様のおもてなしのためボランティアグループ「炉端の会」が囲炉裏で火焚きを毎日行っています。

（「かわさきパラムーブメント」第2期推進ビジョン冊子に載った写真と文章です）

◇木曜班の園外活動、「小林副班長の案内で三渓園を見学」

9月18日（火曜）、木曜班の有志他13名は三渓園でも長くガイドをされている小林千朋さんの案内で、午前中は外苑の旧矢箆原家住宅、午後は三渓記念館と内苑の臨春閣、旧天瑞寺寿塔覆堂、月華殿、天授院などを見学した。

特に旧矢箆原家住宅では内部を合掌造り専属ガイドから屋根裏を含め丁寧な説明を受けて大変勉強になった。内苑の建造物も多くは重要文化財であるが、周囲の自然環境と調和し良く整備されている印象を受けた。記念館では三渓園の成り立ちや書画も嗜んだ原三渓の人となりを再認識することができた。

（三渓園入口にて）

（旧矢箆原家住宅）

「炉端の会」のひとり言-2

炉端の会
2018.11

◇環境整備チームが藍の生葉染めに挑戦しました。

佐々木家の前庭に藍が植えられています。 この藍は今年の5月に環境整備チームメンバーが、藍染の本場である徳島の種子を入手し、メンバー間で分け、各自の自宅で苗まで育てたものを移植しています。 今回の「藍の生葉染め」ではチームメンバーの自宅で育てた藍を使用して挑戦しました。

生葉染めを行った日は雨の為に、山下家の軒下を利用して、写真の手順により、絹や綿のスカーフを染めましたが、水と空気だけで簡単に、失敗することも無く染めることが出来ました。 染める素材が絹の場合は鮮やかな空色に、綿の場合は柔らかい若草色に染まりました。

①佐々木家前の藍の花（生葉染めの原料です）

②葉を摘んで綺麗に洗います

③ミキサーにかけます

④ミキサーから取り出した葉を揉むと濃い緑色の藍染め液ができます

⑤事前にしめらせてよく絞ったスカーフを藍染め液の中に入れて15分つけます

⑥取り出したスカーフを干します

⑦オキシドールを薄めた液で色止めします

⑧最後に水洗いをして乾かすと染め上がりです

⑨良い具合に染め上がった絹のスカーフです